

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 GIFU-D0（ぎふうど）農泊推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,000 千円 (前年度予算額： 7,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,000	3,500	0	0	0	0	0	0	3,500
要求額	10,000	0	0	0	0	0	10,000	0	0
決定額	10,000	0	0	0	0	0	10,000	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

岐阜県は豊かな自然と伝統文化に恵まれ、農林漁業体験や農泊といった「地域の暮らしに根ざした体験コンテンツ」が数多く存在しています。しかし、これらの魅力は十分に体系化されず、旅行業者の商品造成や宿泊施設での紹介、さらには一般旅行者への直接的な訴求においても活用されきれていないのが現状です。

そこで、岐阜県ならではの農林漁業体験および農泊を統一ブランド「GIFU-D0」として展開し、旅行業者・宿泊施設・一般旅行者それぞれに適した形で発信・販売・体験を推進するための体制を整備していく必要がある。

(2) 事業内容

「GIFU-D0」の運営を行う（一社）ぎふの田舎へいこう推進協議会のプロモーション等の業務を支援する。

<（一社）ぎふの田舎へいこう推進協議会の主な活動>

- ・「GIFU-D0」の登録・情報更新等の運営
- ・「GIFU-D0」ポスター、パンフ等の作成
- ・「GIFU-D0」のプロモーション
- ・「Discover Gifu」など観光部門とのとの連携調整
- ・「GIFU-D0農泊」専用WEBサイトの運営

（３）県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる施策であるため、県負担とする。

（４）類似事業の有無

都市農村交流推進事業費補助金

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,000	「GIFU-D0」の運営・プロモーション、専用WEBサイトの運営
合計	10,000	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、
「ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和８年３月策定予定）」

（２）国・他県の状況

近隣県（三重県、富山県、福井県、石川県）で「農泊」に着眼した農村の活性化に向けた取組みを実施。

（３）後年度の財政負担

ぎふ農業活性化基本計画の目標年R12年度に向けて「GIFU-D0農泊」実施のための体制整備とブランド化を集中的に実施する。

（４）事業主体及びその妥当性

県全体の農村のワーケーションを普及・啓発を目的とした事業であるため妥当である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	GIFU-D0（ぎふうど）農泊推進事業費補助金
補助事業者（団体）	（一社）ぎふの田舎へいこう推進協議会 （理由） 県下全域でグリーンツーリズムの推進に取り組む唯一の団体であるため
補助事業の概要	（目的） 岐阜県内の農村地域における都市農村交流を促進し、都市住民等の農林漁業体験者や岐阜県への移住者、農的関係人口の増加を図る。 （内容） 「GIFU-D0」の情報発信に係る経費の助成
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他 （内容） 10／10：上限10,000千円 （理由） 県施策の推進を図るため、必要相当額を助成する
補助効果	・岐阜県における農林漁業体験者数の増加 ・岐阜県への移住者、農的関係人口の増加
終期の設定	令和8年度 （理由） 事業の終期による

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>岐阜県における農林漁業体験を中心とした都市農村交流体験者や移住者などが増加することにより、県内農村地域が活性化する。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 R2年度	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①農林漁業体験者数（ぎふ農業・農村基本計画）	100千人	267千人	276千人	300千人	300千人	92%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
			5,000

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	目標-① 農林漁業体験者数 (ぎふ農業・農村基本計画)
令和5年度	目標-① 農林漁業体験者数 (ぎふ農業・農村基本計画)
令和6年度	専用WEBページの構築や旅行会社との連携、プロモーション先の開拓など、農泊商品の販売開始に向けた運営準備に対して支援することができた。
	目標-① 目標：300千人 実績：276千人 達成率：92.0 %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	新型コロナウイルスによる行動制限をきっかけにテレワークなどの新たな働き方が普及していきおり、それに対応したワーケーション対応施設も農村地域で増加している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	農村でのワーケーションという新たなニーズの開発にはつながっているが、ワーケーションのニーズがあまり大きくないため、成果は限定的である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	ワーケーションという新たなニーズと、都市住民の農村への興味や関心を結び付けた地域課題解決型のワーケーションのプランを開発することで、岐阜ならではのワーケーションを「GIFU-DO農泊」として展開するための体制整備を図ることができた。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ禍を経て人々の活動が活発化し、インバウンド需要も拡大している一方で、農村の暮らしをまるごと体験できる「農林漁業体験」や、それらを滞在型としてパッケージ化した「農泊」の認知度は依然として低く、十分に普及しているとは言えない。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 農林漁業体験を体系化した「GIFU-DO」ブランドと農泊を連携させ、一体的な情報発信や観光業界への提案を行うことで、多様な主体が農泊に取り組みやすい環境を整備し、それらの農村体験をパッケージ化した「GIFU-DO」農泊の取り組みを拡大していく。
